

タイトル：「第6回 ちょっといっぷく 山の文化を楽しむ 鞍掛山に学ぶ」

今回は山下豊さんに、身近な存在としての鞍掛山についてクイズやエピソードを交えながら紹介していただきました。山の歴史など知らなかったことを知り、さらに山の整備に携わっておられる方々のご苦労を知り、鞍掛山への親近感が一層深まりました。

毎日見ている鞍掛山ですが、どんなところに魅力を感じますか？ 頂上からは白山も日本海も360度眺められるし、植物もたくさんあるし自然がいっぱいですね。私にとっては、登山者が安全・安心して楽しめるように登山道が整備されていることなんですよ。お陰様で、土日は第一・第二駐車場が満杯の状況で、年間1万人も登っています。登山道は加賀市・小松市あわせて10ヶ所もあり、地元町内会や鞍掛山を愛する会、登山愛好家有志の協力で維持管理されています。

鞍掛山と言う名前の山は全国で21ヶ所あって、一番高いのは山梨県の2037m、低いのは秋田県の89mです。我が鞍掛山は477.7mですよ。山の形容が“馬の鞍”に似ているところからそう呼ばれています。北前船が航海するときの目印の山だったので、別名舟見岳ともいいます。この付近は昔（1500万年～2000万年）海だったのですが、火山活動で溶岩などが堆積し、さらに造山活動で隆起と侵食を繰り返して峰や谷が作られたのだそうです。



クイズも入れて楽しくお話し

江沼三山と言って大日山・富士写ヶ岳・鞍掛山の三山があります。頂上には昭和天皇が即位された御大典の石碑がありますし、行者岩には千手観音、後山の頂上には雨量計跡もあります。また、平安時代に3人の山伏が洞窟で修業していたと言い伝えがあり、三具足（花立・香炉・燭台）が発見されています。小松市指定文化財になっています。「江沼郡誌」という記録書がありますから見ていただくといいですよ。昭和45年にスカイラインが整備されたのですが、この時には、笹が多くて下刈り用の鎌が切れなくなったので砥石を持って上がったり、一服していたら目の前にマツタケがあったなんてエピソードも残っているんです。

さあ、鞍掛山の生きものクイズです。みなさんわかりますか？

準絶滅危惧種の蝶は何という蝶かな？

麓のトンボの楽園に生息している絶滅危惧種の生きものは？

クマ・イノシシ・カモシカはいるけどテンはいますか？

→ 『ギフチョウ（春の女神） ホトケドジョウ キテン』



カモシカ

もうひとつ日本の山のクイズです。

山の名で多いのは、城山298ヶ所、丸山187ヶ所、白山は31ヶ所

それでは富士のつく山は？ → 『218ヶ所』もあるんですよ。

最後にこれからの活動についてお話します。鞍掛山を生涯学習の山として環境を守り自然の大切さを学ぶことが山の文化を守ることだと確信しています。山の学校も出来ました。樹木や花の名札を緑の少年団や多くの団体のご協力を得て一緒に作っていく計画です。鞍掛山全体を学びのフィールドとして魅力を高めていきたいです。「来てよかった、登ってよかった、参加してよかった」と喜んでいただける様に頑張っていきます。

みなさん 応援してください。



山の日登山 山頂の笑顔

タイトル：「第7回 ちょっといっぷく 滝ヶ原とデンマークの暮らし」

今回は、滝ヶ原に移住されているデンマーク出身のアナ・グロンキア・イエンセンさんに、滝ヶ原での暮らしや故国デンマークの暮らしなど身近なエピソードを紹介いただきました。デンマークと日本とのちがいに気づかされて、多文化共生と国際理解への機会となりました。アナさんの持ってこられたデンマークの素材を生かした料理の本も楽しく見せていただきました。さらにデンマークへ留学中に知り合ったという高橋哉帆さん（滝ヶ原滞在中）も飛び入りで留学中のお話しもしていただきました。

みなさん こんにちは。私はアナです。今日本語を勉強しているから頑張ってお話ししてみます。去年3月に3日間お友達に会いに滝ヶ原に来ました。それが1週間となって、ここでの生活が好きになり、もう少し居たいと思っているうちに1年半にもなっていました。みなさんのお世話になって大変ありがたく思っています。



今日は私のふるさとデンマークの話をしたと思っているけど、みなさん、デンマークについてどんなイメージがありますか。デンマークと聞いて思いうかべる事とか物はありますか。

「アンデルセンの本の人魚姫を思い出します」・・・ああ、有名な作家さんですね。

「それからデンマークは、世界一幸せな国と言われてますね」・・・そう言われていますが、それが正しいかどうかわからないけど（笑い）

（注：国連の発表した『世界幸福度報告書 2019』によると、日本の幸福度は156カ国中58位で、先進国の中では最下位。一方、同ランキングの上位常連国のデンマークは、世界一幸福度が高いと言われていてその教育方針もユニークだ）

私の実家は田舎にあります。デンマークには山がなく最高でも240mぐらい。鞍掛山は478mですね。全然違う。平野ですから栽培ができるので、家族で農家さんが多い。お米は作らないけど小麦やライ麦を作っている。小さな国だけど海がいっぱいある。

お父さんがやっている学校があります。この学校は200年前にある哲学者が作ったものです。田舎の人たちが同じところで勉強しているような学校です。それが何故大切かと言うと、田舎の景色の中で伝統的な文化に囲まれながらも都会の新しいことにもいっしょに触れられことは豊かな生活ができると言えます。今は違うけど、昔は農家さんが夏は忙しかったので冬だけ勉強していました。お父さんの学校では、15歳ぐらいの高校に入る前の子供たちが1年間実家を離れて住んでいるので人生のいい勉強になります。そんな学校が200校ぐらいあって、私もその学校で勉強していました。学校が終わった時には自分自身10年分ぐらい成長していたように思う。100人ぐらいの生徒がいっしょに住んでいて協力しあっていたことがとても印象深く残っています。教育ってすごく大事なあとと思っています。

「デンマークは寒いですか?」・・・デンマークは山がないけどここの方が寒い。去年は大雪になって大変で初めての経験をした。ふるさとの冬は長くて暗いのでさみしい気持ちになる人が多いです。だから、家の中のことを大事にしています。ろうそくの火や薪ストーブを焚いたり、晩ごはんを作ったりして居心地がよくなるように工夫しています。日本の家は冬とても寒く感じる。もっと工夫して頑張らなければならないと思います。逆に夏はずっと明るい。この間日本の10時ごろお母さんに電話して「今何してるの」と聞いたら「今夜中の2時。20km離れた友達の家から自転車で走って家に帰っている」「ええっ! そうなんだ。明るいから大丈夫」人間の流れが全然違う。デンマークは山がないから町の中では自転車でどこへでも行くことができる。私も5歳の頃から保育園には自転車で一人で行った。（笑い）安全な国だから何も心配することはない。お母さんも学校の先生をしていますが、体力が強いから、20km離れた学校へも毎日自転車で行っている。（ワオオー）自転車は健康にも環境にもいいんじゃないかなあ。

「デンマークで好きな料理は何ですか?」・・・私は和食が好きだけど、和食のにおいはなんとなくお母さんの家と同じ匂いがする。友人がデンマークの伝統的な料理について日本語で素晴らしい本

を作ってくれました。後で見てください。日本はお米が中心ですが、デンマークでは朝食は大麦のオートミル・おかゆ、昼食はニンジンやソーセージをのせたスマーポというライ麦のパンが普通です。夕食は茹でた芋や豚肉とキャベツが基本です。滝ヶ原を散歩していたら、下坂さんが軽トラックで来られて「アナ 何か食べないか」と声をかけてくれました。手つくりのライ麦のパンをいただきました。日本の田舎に引越してきてデンマークの伝統的な匂いがして大変うれしかったです。ライ麦パンは発酵食ですから味も深くてモグモグしながら食べるのが好きです。

私の友人の高橋哉帆（かなほ）さんを紹介しします。彼女がデンマークに留学中に知り合いになったのでデンマークの魅力など経験も聞いてみたいです。・・・はじめまして。今埼玉に住んでいます。大学を去年卒業しました。2017年と18年にオーフスというデンマーク第2の都市に留学しました。環境問題や食料問題など社会的な課題が多い中でどうやったら解決できるかを考えていました。ヨーロッパは先進的な取り組みが多いと聞いていたのでデンマークを選びました。行ってみて、本当に環境を大切に、暮らしの中でどうやって実践できるか考えているのがすごいと思いました。日常生活の中で、滝ヶ原の様に自然がいっぱいです。道端で摘んだクランベリーを持って帰って食べたりして野草の魅力に気が付きました。日本に帰って来て自然とともに生きるということが昔の日本には根ついていることをデンマークで知り改めて日本の魅力に気づきました。アナさんは「私も雑草を食べることを日本で初めて経験しました。今ナツメが完熟していて散歩しながら一粒ずついただいています」



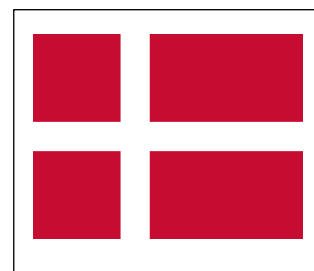
アナさんとかなほさん

デンマークではスーパーの後ろにごみ箱が置いてあります。まだ食べられるものがたくさんあるのに、賞味期限が決められているからです。でも私は1年間何も買わなくてごみ箱だけで生活できました。（笑い）事実として、どうしたら捨てられる食べ物を救えるかが問題です。何かごみあさりという聞こえがよくありませんが、食料廃棄は大問題です。期限が来たからと言って捨てられる食料に対する解決策・アクションを考えなければなりません。ちょっとネガティブに聞こえるかもしれないけど、学生たちがまだ食べられるものを見つけてきてみんなで料理していると、お金がなくても豊かな楽しい暮らしができるのもデンマークの良さかなあ。

これはお母さんが作ってくれたデンマークの国旗の飾りです。誕生日や記念日に飾ります。

（笹原より：今日の新聞に、「国連がSDGsの17の目標を決めて6年目にあたります。だれ一人取り残さないという理念が基本です。食料問題も大きな課題で、北陸でも子供食堂なども広がりつつあります」という記事が出ていました。ちょうど良い話題でしたね。）

アナさんから、きっとその記念日にお母さんが送ってくれたのかなあと今日のお話を締めくくってくれました。



デンマーク国旗

タイトル：「第8回 ちょっといっぶん 俳句に親しむ」

今回は、石切場など滝ヶ原を素材として俳句の吟行をされている田中清子さんと友人3名の方々に、俳句の楽しみを紹介していただきました。滝ヶ原の日常の暮らしの中にある沢山の歌の素材を見つけて俳句を作り楽しんでおられます。田中さんの語り口は、おだやかで「おんぼら一と」として、ゆっくりと文化の香りを味わうひと時でした。まさに身近いところにスローツーリズムの一端を示していただいたような気がします。

みなさん こんにちは。私は小松で俳句を楽しんでいます
田中清子です。今日は3人の友人とともにお招きいただき
ありがとうございます。15分という短い時間ですので
要点をまとめてプリントにしましたので参考にさせていただ
きたいと思います。



プリントを見ながらお話を聞く

はじめに俳句の決まりを紹介しましょう。俳句には3つの決まりがあります。1つ目は5・7・5という定型があります。2つ目は季語をひとつ入れる。そして3つ目は切れがある。切字といって「や、かな、けり」を入れて間がありひと呼吸入れることができます。最近では型にとらわれずに自由に作ればいいのか、季語も無くてもいいとかという方もいらっしゃいますが、今日はほんとうの基本に触れてみたいと思います。

- ① 定型 コスモスの 押しよせてゐる 廚(くりや)口 上五・中七・下五で構成されていますね。
- ② 季語 ころがねの 秋の風鈴 鳴りにけり

季語というのは季節の表す言葉で、俳句の中心おも柱です。私たちの周りには季語がいっぱいころがっています。今秋ですから「初紅葉」「ススキの穂」などです。私たちには歳時記というお宝があります。日本の四季のうつりかわりをあらわす言葉の宝物で、楽しく参考になります。ある人が「離れ島に何かひとつ持っていくとしたら何を持っていきますか」と問うと、歳時記と答えたという話があります。私もそう答えるでしょう。楽しみながら歳時記に親しんでいくことをお勧めします。

「サイレンが鳴り始めました終わらないと言うのではないでしょうね」(笑)

- ③ 切れ 雁(かりがね)や のこるものみな 美しき

「や」でいったん切れます。そして後に続いてひとつにまとまらります。

次に俳句の「たね」のことをお話ししましょう。日常生活のいたるところに材料が山ほどあります。食べ物・友達・生活のこと・山や海など自然、何もかも俳句の素材です。何よりも大切なのは、自分の感動したことをそのまま詠むことです。体験したことには何よりも力があります。テレビで観たことや人から聞いたことでなく、自分が足で確かめたことや肌で感じたことは強いです。

さらに俳句の型について考えてみましょう。次の二つがあります。このようにいろいろ試みてみるところに俳句の楽しみがあると言えるでしょう。

一句一章 一つのことだけを取り上げて句にしたものです。次の句は阿波踊だけを取り上げています。

手をあげて 足を運べば 阿波踊

二句一章 違うものを取り合わせたものです。次の句は全く違うものを取り上げています。

秋風や 模様の違ふ 皿二つ
陽炎や 母といふ字に 水平線

いい俳句を作るには気を付けることをいくつか紹介しましょう。

イ、大切なのは、一番言いたいことをいう。決して欲張らないことです。

ロ、私・吾・我などの主語を省き、さらに悲しい・淋しい・うれしいなどの感情を表に出さないで気持ちを表す工夫をします。

ハ、観察と独自性といいますが難しく聞こえますが、ものやことをよく観て個性を生かすようにすることです。そして「スッキリ クッキリ ドッキリ」を覚えておきましょう。俳句には、いらぬものを省略する、言

い換えれば足し算でなく引き算をすることが求められます。そして焦点を絞り込んで感動を伝えることがいい句といわれています。

それでは今日は3人のお友達を紹介します。滝ヶ原で吟行したご自分の作品と、俳句に親しんで良かったことなどを紹介してください。



田中さんと3人のお友だち

今西陽子です。俳句を楽しんでいて良かったことは、ふだん見過ごしてしまうようなことやちょっとしたことに気づくことです。風の向きが変わったり、影が濃くなったなあと日射しの変化に気づいたり、秋から冬への変化を肌で感じる事ができて感謝しています。

古田芳子です。おとし石切り場を訪ねた時の句です。俳句を詠んでみて、いろんな草花の名前を知ったことが感動です。今まで雑草と思っていた草花に名前が付いていたことなど深く広く知りました。俳句は紙と鉛筆があればどこでも作れると言われてはいますが、入院していても作って投句をしています。病院から見える風景、お寺の梵鐘などを詠んで来ました。他の趣味ですと入院するとできませんが俳句は作ることができます。これからもずっと続けていきたいと思えます。

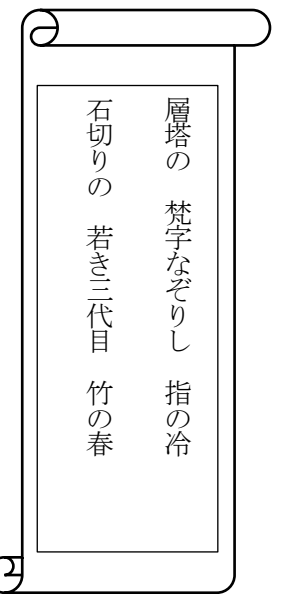
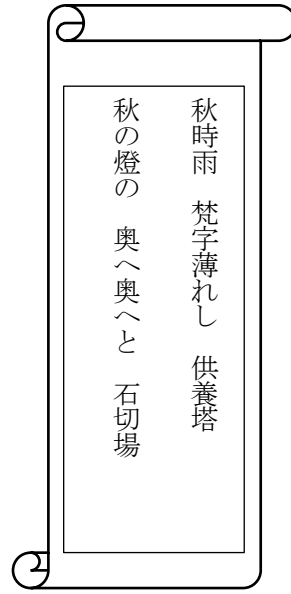
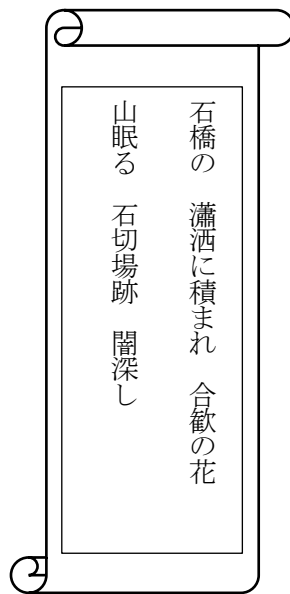
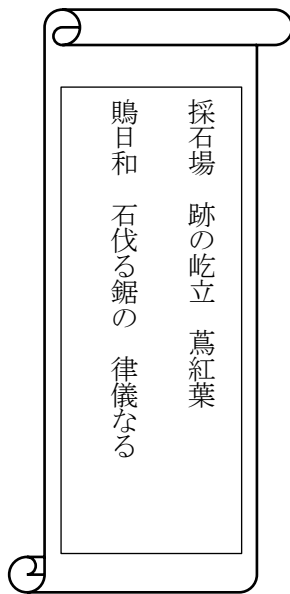
宇野節子です。俳句をしていて良かったことは、日常の暮らしで、ものを見る目が大きく変わったことです。先ほど田中さんの紹介にあった歳時記には、美しい日本の言葉が満載です。毎日楽しんで開いてみえています。これからも頭の体操として頑張っていきたいです。

田中 清子 さん

今西 陽子さん

古田 芳子さん

宇野 節子さん



この他にも仲間の作品をプリントに載せてあります。後で読んでください。頭の働きは歳とともに鈍りますが、俳句はそうならないように保って行ってくれます。頑張っていきます。

最後になりますが、俳句はすぐ作れることを紹介しましょう。思いつくことや心に残ったことをメモをしておいて、その中から一つだけ選んで5音にします。石だたみ、散歩道、味噌汁・・・など。例えば、朝の風と5音にしてさらに7音足して12音にしてつぶやいてみます。そしてそれにふさわしい季語を選びます。そうすると「朝の風 全身に浴び 初紅葉」という句が出来上がります。こうしていっぱい作ってみたら、前後をひっくり返してみたり、季語を変えてみるのもいいです。きっとその中にダイヤモンドが見つかるかもしれません。俳句はすぐ作れますが奥は深いものです。どんどん進んでいくと難しいことに出会いますがそれが魅力です。是非挑戦してみてください。

これで終わります。ありがとうございました。

(拍手)

タイトル：「第9回 ちょっといっぷく 東アジア・日本と滝ヶ原とつながり」

今回は、滝ヶ原にお住まいになっていて下坂町内会長の友人でもある若本さんに、古代インドから中国を経て伝来した仏教の滝ヶ原とのつながりについてお話ししていただきました。古代中国と日本の大きな流れをまさしく大河ドラマのように感じていただくことができました。

お話しの内容を下記に記載します。

毎日の忙しい生活の中で、仏教というと遠く感ずるものです。私達の爺さんの時代では倫理観として定着していました。お釈迦様の教えがルンビニから中国を経て日本に到達しました。538年です。平安時代に入って最澄・空海によって仏典が編じられました。北陸は親鸞・蓮如の浄土真宗が盛んになりました。滝ヶ原では門徒（檀家）もたくさんあったことや八幡信仰が盛んだったことが町史にも記載されています。

私たちは漢字をサンスクリット語を訳した仏教経典から学び、現在につながって来ているのです。奈良飛鳥の里を訪れると、大陸のにおいを感じることができます。是非「心の旅」をしてみたいものです。



三密に注意しながら、小松・能美・加賀市や金沢からも39名の方々が熱心に聞き入りました。

●はじめに

今日は「大陸（特に中国・朝鮮）とここ滝ヶ原のつながり」ということでお話ししたいと思います。今回のキーワードは仏教です。仏教と聞いて今の私達には何か遠いもののように思いませんか？ 日々忙しい生活を送り、戦後（After World War II）の経済発展によりそれを感じ取る事が難しくなってきた現在・・・確かに遠くに思えてきます。ここ北陸・加賀：私たち・私たちの親（じいさん・ばあさん）の倫理観・道徳観はどうやって確立されてきたのでしょうか？ 隣人に優しいところ、貧し人に手を差し伸べるところ。シヤカ（おしゃかさん）の教え（仏教の教え/救済）や仏教の律（出家修行者が守らなければならない規則）と律を補う論（教説を解説）さらに倫理・道徳感などを思いながら、仏教との関わりを考えてみました。

●仏教の起こりと伝播

紀元前5世紀にネパールのルンビニでシヤカ（ゴータマシッダルタ）により起こった仏教(Buddhism)は、根本分裂をへて部派仏教、そして大乘仏教・上座部仏教（小乗）にわかれユーラシア大陸、主にアジアに伝播していきます。インドから北側にむかって伝播したのが北伝仏教（＝？大乘仏教とは完全な伝播一致ではない）、南・東に伝播したのが上座部仏教です（ビルマ・タイ・ベトナム南部）（あくまでも後代の私たちが付けたもの）。日本に到達した仏教はこの大乘仏教といわれるものです。

インド・ネパール→中央アジア→中国→朝鮮→日本（※チベットルート）

伝播の過程で重要となる人物

龍樹（空の概念） 2世紀 すべては空

弥勒 (瑜伽行唯識学派) 3-世紀 ヨーガ行を通して
鳩摩羅什 3-4 世紀 仏典の漢訳

妙法蓮華經 (法華經) 仏説阿彌陀經

中国へは中央アジアをへて 1 世紀 (後漢の時代) に伝わり、その後
北魏 (鮮卑 拓跋部) → 隋・唐の時代に咲きます

北魏 龍門石窟 洛陽
唐 大雁塔・玄奘 (西遊記で有名)
長安・現在の西安 (遣隋使・遣唐使) など



大雁塔 (だいがんとう) 652 年に唐の高僧玄奘三蔵がインドから持ち帰った 經典 や仏像などを保存するために建立した塔 (笹原記載)

●日本への伝来と繁栄

538 年 (説がある) に仏教が經典とともに日本 (当時は 倭) に伝わり
ます (朝鮮: 三国)。それ以前に大和の豪族により朝鮮半島からの
伝来はあると思われます。

斑鳩・飛鳥、奈良に国家仏教寺院として大寺が建てられる。

飛鳥 蘇我馬子 飛鳥寺
斑鳩 聖徳太子 法隆寺 (河内: 四天王寺)
奈良 天武・持統 興福寺 (藤原氏)、薬師寺、国分寺・尼寺

また、鑑真の渡海により戒壇が伝えられます。 東大寺・唐招提寺

京都遷都後は国家仏教として多いに咲く時代となります

当時の仏教総合大学として

最澄 天台宗 比叡山 延暦寺
空海 真言宗 高野山 金剛峯寺

そして、New 仏教としての鎌倉仏教そして加賀・滝ヶ原へ伝わり
ます。

時宗 一遍、日蓮宗 日蓮、臨済宗 栄西、曹洞宗 道元

平安時代末期、一人の高僧が現れます。彼の名は 法然 (源空) です。比叡山・延暦寺に学び、称名念
仏 (南無阿彌陀仏の 6 文字) を唱えれば、阿彌陀仏により極楽浄土 (西方極楽浄土) 導かれるという革
新的な宗派 (浄土宗) を起こします。

經典には、根本經典 (浄土三部經) 仏説無量寿經 仏説観無量寿經 仏説阿彌陀經 があります。
弟子に親鸞・熊谷直実 (蓮生/金沢市には仰西寺が在ります (末裔が当方の友人です 今でも住職として
熊谷を名乗っております))

親鸞はその後、浄土真宗の開祖とされ、この加賀の地に非常に多くの影響を及ぼします。

「正信偈 (しょうしんげ) の話や法然上人になら、騙されて地獄に墮ちても、なんら後悔しない」
親鸞から 8 代、浄土真宗の中興の祖といわれる蓮如が現れ、現在の福井吉崎を拠点として、波佐谷松岡
寺 (現在の小松市波佐谷) を開基します。加賀守護富樫氏との闘い 加賀一向一揆 100 年として歴史
に刻まれています。ここ滝ヶ原もこれにもれず巻き込まれていくのです。これにより真宗王国と呼ばれ
ようになりました。

●白山信仰

時系列は戻りますが、7 世紀初め (717 年)、泰澄による白山開山からはじまります。

仏教以前からある山岳信仰と融合した修験道 (白山信仰) として広まり、この滝ヶ原の地にも根ざし
ます。また、滝ヶ原の神社が八幡社であることも強い八幡神信仰が見受けられます。

釈迦如来 = 八幡神

●今・心の中の仏教

物質的な仏教の痕跡はここ滝ヶ原では現在見ることはできません。ただ過去の歴史として、現在の八幡
神社内に寺山廃寺として残っているだけです。

But! しかり! そうではありません。私たち心の中に倫理・道徳として形の見えない存在として確立
されているではありませんか。

大陸 (中国) との関わりを考えると、今、私たちが読む仏典 (經典) は全て、漢訳 (漢字化され

た) ものです。すべて漢字で書かれています。また、寺院・仏閣もすべてが唐風（中国風）であり僧侶の衣装も同じです。

遠く離れたここ滝ヶ原のこの地で、大陸の悠久の歴史を感じ取れる事は幸せにつきません。仏教をキーワードとして、ここ滝ヶ原より、畿内：斑鳩・飛鳥・奈良・京都そして中国へ足を運ぶのも、こころの旅としていかがでしょうか。

最後になりますが、滝ヶ原史を書かれた中川様に感謝申し上げます。

タイトル：「第10回 ちょっといっぷく 壁画ペイントにかける想い」

今回は、完成した壁画ペイントにかける想いを加藤章子さんにお話ししていただきました。章子さんの爽やかな語り口は参加者の共感を呼びました。壁画に参加してくれた人たちからの感想コメント集もみなさん見てくれていました。良かったです。以下、章子さんから原稿をいただきましたのでここに掲載します。

昨年7月から里山自然学校こまつ滝ヶ原で、特任アドバイザーとして活動しております。今日は、ここからも見えます自然学校のブロック塀の壁画についてお話させていただきます。まず、簡単な自己紹介をさせていただきますが、私は滝ヶ原在住歴300年で、仕事は昨年まで市内の建設会社で、設計メインで営業・現場管理業務も行っておりました。現在はそちらを退職して能美市の九谷焼技術研修所で絵付けを学んでいます。

では、壁画の話に戻りますが、ここは元々滝ヶ原保育所だったんですが、このブロック塀には別の絵が描かれていました。実はその絵も当時、先生に依頼されて私が下絵を描いて保護者でペンキ塗りをしたんです。絵は20数年の経過で、劣化が激しくなっていたので、自然学校の定例会の後の雑談で「あの絵を描き直して、小松にいる外国人とペンキ塗りしたら楽しいんじゃないかな」と話しました。

その時、真っ先に「面白い！その話乗った！」と

おっしゃって下さったのが、国際交流協会の重鎮

で里山グローバル塾塾長の笹原さんだったんです。それから、川島校長やSATOYAMA協議会の生水会長にも賛同して頂いて、市役所にも承認をとってこの企画がスタートしました。



爽やかな章子さんのお話し

私が下描きをして、参加者全員でペンキ塗りをするという企画です。さて、なぜここで外国人というワードが出てきたかという、私は英語が苦手なのですが外国人との交流サークルに入っています。石川県には、たくさんの外国人が就労であったり、教師であったり、学生としても来日しています。私が知り合う外国人は主にALT（外国語補助教師）の方が多いのですが、彼らはほぼ2~3年で帰国してしまいます。ALTに限らず、ここ滝ヶ原に移住している外国人の子たちも、仕事で来ている子も、永住とは限りません。そんな人たちに、この地に残せる思い出を住民と一緒にみんなで作れたらいいな〜とそんな気持ちからの提案でした。

ただ、コロナ禍ということもあって人集めが難しいので、小松国際交流協会に後援をお願いして、あとは地元住民含めても少人数でちんまりやろうと思っていたのですが、せっかく滝ヶ原という地域をするのだから・・・という提案もあって、地元である那谷小学校・那谷保育所にも声を掛けることにしました。市役所からは感染対策や人数制限の指導もあったので2日間に分けて時間帯も区切って予約制にするということで募集を募りました。そうしたところ、なんと2日間トータルで、外国人・保育所・小学校・地元の方約100名の参加者が集まりました。



みんなの想いを載せた夢いっぱいアート

参加者の中には、絵が描くことが好きな保育所の園児、小学校最後の思い出にしたいと参加された児童と保護者さん、学年レクレーションとして参加された児童と先生、日本語を学びながら働く外国人、来年帰国するALTとその仲間たち、たくさんの方がいました。私の下絵のコンセプトは「里山と共生す

る町」になっているので、石切り場・石橋・鞍掛山、そしてそこに生息する動物たちやハッチョウトンボなどが描かれています。今回、参加者の皆さんには色塗りと同時に更に絵を描き足してほしいとお伝えしてありました。

ブラジル出身の松本ゆうじくんは、真っ先にニワトリと丹頂鶴を描いてくれました。小学生はお花や風船・猫ちゃん、ALT の先生達はバク、スパイダーマン、来年帰国する ALT と大親友の日本人女性は友情のカエル等々、それぞれの思いが沢山ここに描かれました。そして、絵と一緒にみんなのサインも入っています。私の描いた「里山と共生する町」の絵は、国籍や年代の境界も超え、完全に私の手を離れて、私が思っていたよりはるかに壮大な 100 人のアートに変わりました。この企画に関わってくれた皆さんには、この思い出を訪ねて又滝ヶ原に遊びに来てくれたらうれしいなと思います。

最後になりましたが、この企画をするにあたって、参加者のお土産用にお米を寄付してくださった川島校長、滝ヶ原営農組合、そして小松国際交流協会との橋渡しをしてくれた笹原さん、サプライズ柿もぎや草刈りから当日の準備後片付けを手伝ってくれた里山協議会と町内の皆さん、ほんとうにありがとうございました。このチームだからこそ 出来た企画だと心から感謝しています。

それでは、今日はこちらにある日本語学校の生徒さんの感想と見るたびに新しい発見のあるおもちゃ箱のような 100 人の思いが詰まった絵を帰りに覗いて頂けると幸いです。

本日はありがとうございました。



参加してくれた人たちの感想
